

ご意見等
*とても多くの教育的な展示があり良いと思います。一方で展示室内の展示が混んでいてやや暗い中でビギナーにはお互いの関係や話のながれがわかりにくくなっているように思います。それぞれの天体のスケールのわかる統一した案内があると良いかもしれません。 * クイズ形式で答えを探しながら順番に展示を探検していくような仕掛けを作ってはいかがでしょうか。ビギナーや達人などのレベル毎に違う内容を設定して何度もトライしたくなるような仕組みを作ってはいかがでしょうか？(角田で開催されているポケモン天文台は下に添付したようなクイズラリーがありました)
* 世界の星空の今や世界のつながり(あるところは昼間だったり、あるところは天気が悪かったり)が見れる展示があると良いと思いました。以下の様なサイトの情報は使えるのかもしれませんが。 https://www.nao.ac.jp/livecam/ https://www.allskycameraproject.com/?cn-reloaded=1
* 一部の展示は入口のホールやカフェのあたりに展示して展示室に入る前や出た後で、プラネタリウムや観望会の待ち合わせの時間や軽食の合間に触れられるようにしてはどうでしょうか？

展示更新への反映について（トータルメディア）	関連する段階
・体験やエリアサインのアイデアとして参考といたします。動線のわかりやすさについてもグラフィックを更新していく上で留意します。	設計
・クイズラリーのような形式の場合、景品やラリーの達成が目的になってしまい、知識を深める体験へと繋ぐのが難しかったという経験もございました。常設の展示での効果的な活用が可能な、運営者とも協議して検討します。 ・「宇宙を観つづける」「まだわからない」エリア等での部分的な活用も視野に入れ、検討します。	設計
・体験のアイデアとして参考といたします	設計
・体験の流れを重視した上で、展示室のみにこだわらない空間活用も視野に検討します。	計画・設計

令和 8 年度第 1 回仙台市天文台運営協議会でいただいた展示更新に関する意見等について

西山副会長

2026/8/21 トータルメディア開発研究所

ご意見等
<地球エリア>
大気に関する展示がどれだけ必要か、再考してもいいのでは。身近ではあるものの、どれだけ興味を持ってもらえるのか疑問がなくなるはない。
<太陽系エリア>
太陽に関する展示が多いが減らしてもいいかもしれない。もちろん身近ではあるが、天文研究ではマイナーな分野になりつつある。
むしろ惑星、小惑星の展示が増えるといいかもしれない。特にハヤブサからの小惑星探査などに興味を持ってきてくれた人が喜ぶような展示が少ないと感じた。
<銀河系エリア>
太陽系外惑星に関する展示を大幅に増やしてもいいのでは。天文研究ではとてもメジャーで、今後10-20年はどんどん新しい結果がでてくるはず。一般の人の興味も強いと予想する。例えば、すでに発見されている太陽系外惑星の模型を展示するとか。
<大宇宙エリア>
重力レンズの模型を、どれだけの人が興味をもってくれるのか疑問に思った。なくてもよいのでは。
<天文学の歴史エリア>
クイズと年表をうまく連動させられるといいのでは。クイズが出されて、年表から探して答える、というような形とか。今でもそうなってる？
<体験エリア>
自分の子どもの滞在時間が一番長いのは体験エリア、特に重力。ここに魅力的なものが増えるといいなと思う。
<全体>
文字だけの展示をできるだけ減らすのがいいかもしれない。タッチパネルになっていれば、内容をどこまで読むかはともかく、子どもが触ってはくれるかも。
画像を使う場合は、できるだけ日本の望遠鏡や日本人の研究結果を使うといいように思う。自分たちにもできるのでは、と子どもたちに感じて欲しい。

展示更新への反映について（トータルメディア）	関連する段階
・設計段階で参考といたします。	設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・体験のアイデアとして参考といたします	計画・設計
・体験のアイデアとして参考といたします。系外惑星については「まだわからないこと」も多いため、「まだわからないことエリア」でも取り上げたいと考えています	計画・設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・年表を魅力化するアイデアとして参考といたします	計画
・GEN理の広場の体験は天文の歴史と繋げる形で移設活用し、「まだわからないことエリア」をはじめ各エリアで体験装置を拡充します。	計画
・グラフィック上は情報を絞り、より詳細な解説はQRコード等からインターネット上でアクセスできる仕組みも検討していきます。	計画・設計
・設計段階で参考といたします。	設計

令和 8 年度第 1 回仙台市天文台運営協議会でいただいた展示更新に関する意見等について

洞口委員

2026/8/21 トータルメディア開発研究所

ご意見等	展示更新への反映について（トータルメディア）	関連する段階
「わかるが増えていくこと」と「まだわからないに突き当たること」に着目するのはとても良い観点と思います。 1つの発見から生まれる両者の関連を有機的に結び付け、来館者に感じてもらえるような工夫を、何らかの方法で実現していただけることを期待します(展示の位置関係や表示手法その他の方法による連携表現)。	「まだわからないことエリア」は展示室の中心に配置し、各エリアの内容と連動するような構成とすることで、「わかる」と「わからない」が交互に増えていくような、有効な運動が起こっていくような場にしていきます。	計画
展示ができた後も新しい観測や発見が毎年増え、わかったこともわからないことも同時に増えていくわけですが、そのような新しい情報を追加更新していけるような展示になっていると、新鮮な印象を来館者に与え、満足率やリピート率、施設をサポートしたい気持ちの向上にもつながると思います。	・新たにわかったこと、更新されたわからないことを追加更新できる余白を踏まえた設計としていきます。	計画
太陽系エリアがかなり密なのに対し、銀河系エリアの奥の方が余裕があるように見えたので、来館者が足を運びたくなるようなものを置く(あるいはそのようなコーナーにする)ことによって、そのあたりをより有効に活用することができたらと思います。	・ゾーニング上での参考といたします	設計

令和 8 年度第 1 回仙台市天文台運営協議会でいただいた展示更新に関する意見等について

湯蓋委員

2026/8/21 トータルメディア開発研究所

ご意見等
・中央の「まだわからないことエリア」にはどのようなものを展示するのか？
・それぞれのエリアごとに醍醐味を説明。（音声ガイドの貸し出し、ボランティアのナビゲート、ポップで掲載） 展示ツアーに参加した方とそうでない方の満足度が同じくらいになるように
・それぞれのエリアごとにAIチャットで、質問と回答もらえるアプリ
・没入型体験（VR）
・写真映えのスポット各处（インスタ、X）（毎回違うパターンで撮影）
・子供が夢中になる導線
・家族で楽しめる空間
・滞在が長くなるよう、座れる、話せる場所は増やす。
・企画展示コーナーに専門書、話題の書籍、漫画、ドラマ、イベント、著名人の紹介、海外の取り組み、季節ごとの星座
・身障者、どの年代層の方も快適に
・床に矢印（わからないことエリア）と各エリアを結ぶ
・展示室全体、鳥の目で、文字より壁、床、展示物がカラフル、イラスト
・JAXA, NASAの紹介？
・ブラネくんをもっとアピール
・「宇宙、星座について学ぶ」場所であり「さらなる疑問を持って帰れる」場所

展示更新への反映について（トータルメディア）	関連する段階
・展示計画（案）に、より具体的な展示アイデアを追加しました。	計画
・科学コミュニケーターやスタッフサポーターによる解説に加え、AIコミュニケーターとの対話によって、もっと醍醐味がわかる展示とします。	計画
・AIコミュニケーターが疑問に答える機能を担います。	計画
・手法として、今後参考といたします	設計
・「まだわからないこと」エリアのシンボル展示等、来館者による写真撮影も想定して設計を行います。	設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・運営に関わる視点として検討します。	運営
・設計段階で参考といたします。	設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・設計段階で参考といたします。	設計
・展示内容を踏まえた効果を検討し、参考といたします。	設計
・運営に関わる視点として検討します。	運営
・「まだわからないこと」に触れることや、AIコミュニケーターとの対話等を通じて、ただ知識を得るのみでなく、「さらなる疑問を持って帰」り、何度も来訪いただくことによって宇宙への知識や興味を深めていっていただけるような計画とします。	計画